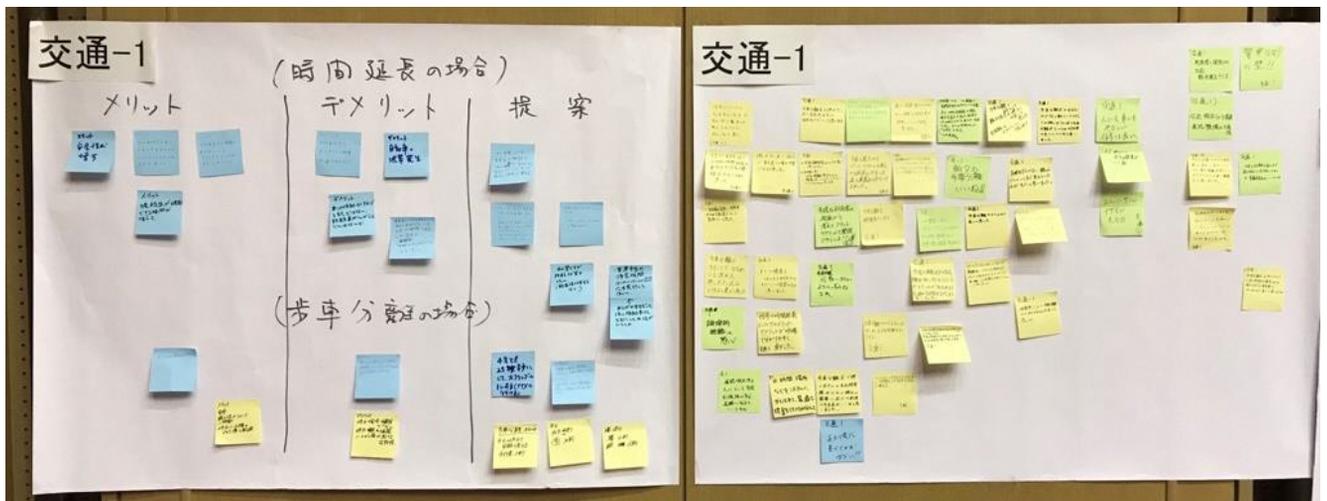


分科会(グループ)	交通-1
提案内容	歩行者にも車にもやさしい信号システム
発表内容	<p>綾羽高校付近の交差点については、信号の南北と東西の持ち時間が20秒と40秒の差があり、生徒が利用しづらいということと、交通量が多いときには、自動車、自転車、歩行者が行き交い、非常に危険であるという課題がある。</p> <p>まずは、信号機にはどのような種類があるのかを研究し、この交差点にどういった信号持ってくるのが一番良いのか、それぞれのメリット・デメリットを検証したうえで、信号の持ち時間を延ばす方法と、歩車分離の方法の二つの観点を中心に考えた。</p> <p>持ち時間を延ばしても、車と人との接触の危険性を回避することは難しいと考え、歩車分離の方に視点を向けた。</p> <p>笠縫東学区にある川原小久保交差点は、押しボタンを押し、歩行者が「渡ります」という意思表示をしたことによって、初めて交差点が歩車分離式になる信号機が設置されている。同様の形式の信号機をここを持ってくると、人にも車にもやさしい交差点になるのではないかと考えた。</p>



分科会(グループ)	交通-2
提案内容	自転車利用を促進した健幸都市くさつの実現
発表内容	<p>自転車の路側帯をもう少し広げて、安全に通行できるようにしていきたいという提案に対して、予算が足りない、駅前周辺の整備計画がなかなか実行に移せない等の課題があるが、自転車よりも自動車の方が交通量が多いため、自動車の方に道幅を割いてしまうということが一番の課題ではないかと考えた。</p> <p>自転車の通行のために車の通行を制限する、住民のワークショップで行政に投げかけるなど、様々な提案があった中、道路を広げる、新設する場合は、住民の理解を得ることが重要であり、自動車が必要な方、自動車に乗れない方、それぞれの暮らしのニーズに応じた調査が必要であるという意見があった。また、自動車は排気ガスも出て、環境には良くないという点に対して、自転車は運動にもなるし、健康的なものであるとのことから、車社会からシフトする政策も必要という意見があった。</p> <p>それぞれメリット、デメリットがあるが、最終的には、駅周辺などの様々な人が使う場所で、例えば、一方通行にすることにより車が使う道幅が少なくなる分、自転車に道幅を割くというような手法が有効と考え、駅周辺などの交通形態を見直すことを提案する。</p>

